

ナンバリングコード BIIAR-baxG-10-Lf1 授業科目名 (時間割コード:001101) 学問への扉 Introduction to academic research メディアとなるもの What is the Medium?	科目区分 学問への扉 水準 学士:入門科目 分野 学問への扉 授業形態 講義 フィールドワーク	時間割 2022年度 1Q月5 提供部局:大教センター DPコード:bax 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 小坂 有資, 大村 隆史, 柴田 悠基	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業 90分×7回 + フィールドワーク 90分×1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> すぐれた書物等は、今まで知らなかったものの見方や、新しい世界を私たちに示してくれます。この時の驚きや感激が学問の原点です。この授業では、そのような経験をし、学問的見方のおもしろさの一端に触れ、読むことによる探求になじむことを目的としています。 この授業は、「メディアとなるもの」をテーマとします。地図、芸術祭、民藝と関係する書物等を読み解くことを通じて、「メディアとなるもの」の新たな魅力を皆さんと一緒に探っていきます。			
<b>授業の目的</b> 人文・社会科学に関わる書物等やその背景となっている学問と出会い、それらが提示する知的世界の広がりや深さに触れると共に、いくつかの学問的なものの見方やアプローチの仕方を理解する。また、それらの経験を通して、知的読書を習慣とするきっかけをつかむ。			
<b>到達目標</b>			
1. 改めて書物等と出会い、その経験について述べることができる。 2. 書物等の読解を通じて、様々なものの見方、探求の仕方を学び、実際にそれらを活用できるようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 知的読書を習慣とするための第一歩として、課題図書を通読し、それについて自分の考えをまとめることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」、「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取組60%、課題図書レポート40%			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション 第2回 メディアとなるもの① メディアを取り巻く議論(柴田悠基) 第3回 メディアとなるもの② 書物と地図(柴田悠基) 第4回 芸術祭と地域社会①「メディア」としての芸術祭(小坂有資) 第5回 芸術祭と地域社会②「メディア」としてのアートボランティア(小坂有資) 第6回 民藝とは何か①「メディア」としての民藝(大村隆史) 第7回 民藝とは何か②民藝の現在地(大村隆史) 第8回 栗林公園でのフィールドワーク			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 第1回のオリエンテーションの後、1人の教員が2回ずつ授業を担当します。これらの授業で学んだ知識を活用して、第8回では栗林公園でフィールドワークを実施します。また、この授業は8回で完結するものではなく、授業終了後から8月31日までの間に、3人の教員と受講生によるフィールドワークの振り返りを行い、課題図書を1冊以上読み、それについてのレポートを提出する必要があります。希望すれば、レポートに対して教員からのコメントをもらうことができます。 この科目は全回対面授業を行います。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> この授業は読むという行為を習慣とするきっかけをつかむことを目的の一つとしているので、授業で紹介された書物を授業時間外に積極的に読むようにしてください。その読書をもとに、課題図書レポートを作成する必要があります。また、それらとは別に、事前・事後学習の課題を出すので、授業中の指示を聞き漏らさないようにしてください。			
<b>教科書・参考書等</b> 教員が授業中に書物を紹介します。紹介図書の内容については、リーディングリストに掲載されます。利用の仕方については、『修学案内』に掲載されているリーディングリストの説明を参考にしてください。			
<b>オフィスアワー</b> 全般的な点については、コーディネーターの小坂(時間:水曜日12:00~14:00、場所:幸町北キャンパス5号館5階)まで。 個々の講義内容に関しては、授業中に講義担当者に相談のこと。			

## 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

### 【授業全体について】

複数教員によるリレー形式の授業で、全教員の授業に出席することが評価の前提となります。課題図書は図書館に配架されていますが、数に限りがあるので、自分が利用したいときに、借りられている場合もあります。その際は、自分で書籍を購入する必要があります。

課題図書レポートの提出期限を夏季休業期間に設定するため、成績評価は第3クォーターの成績評価と同時期になります。

受講希望者が受け入れ人数を上回った場合は抽選を行います。

### 【第8回の栗林公園でのフィールドワークについて】

フィールドワークを行うため、「学生教育研究災害傷害保険（略称：「学研災」）」と「学生教育研究賠償責任保険（略称「学研賠」）」に加入してください。加入の方法などについては初回のオリエンテーションでも説明します。

新型コロナウイルス感染症対策について授業等で説明するので、それらの対策を講じたうえで、フィールドワークに参加してください。

新型コロナウイルス感染症などの影響により、フィールドワークができなくなる場合もあります。その場合は、第8回の授業内容を変更する可能性があります。

学外で活動を行うので、社会の基本ルールを守ってください。

ナンバリングコード BIIAR-baxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:001102) 学問への扉 Introduction to academic research 本との出会いで広がる世界 The world spreads through Readings	科目区分 学問への扉 水準 学士:入門科目 分野 学問への扉 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 1Q金1 提供部局:大教センター DPコード:bax 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 蝶 慎一	関連授業科目 学問基礎科目全般 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×8回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 大学生になると学問的な書物を「読むこと」が多くなります。高校までの「読むこと」という行為を振り返りながら、習慣的に「読むこと」で大きく広がる世界や学問的な見方、基本的な視点を理解し、具体的に「読む」きっかけを創る時間とします。			
<b>授業の目的</b> 大学生として書物の面白さや多様な体系的知の世界を理解するために、著者(書き手)と読者(読み手)の双方の立場、視点から学問的な書物を主体的かつ批判的に「読むこと」ができるようになる。			
<b>到達目標</b>			
1. 大学生の読書離れの実態や近年急速に普及している電子書籍の動向を理解し、具体的に説明できる(共通教育スタンダード「b 広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 「読むこと」を習慣にするきっかけを見つけるとともに、著者の主張を正しく見つけ、その主張に至る論拠や理由、議論のプロセスを具体的に討議できる(共通スタンダード「a 問題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 自身が関心のあるテーマやトピックについて、学問的な書物を習慣的かつ批判的に「読むこと」で学部専門課程を進んでいく際に必要な学問的基礎を身に付けることができる(共通教育スタンダード「b 広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・授業中のグループ・ディスカッションへの取組、各週の「振り返りシート」 70%(到達目標の1及び2.に対応) ・最終レポート 30%(到達目標の2.及び3.に対応)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1週 オリエンテーション ―「読むこと」とは何か 第2週 大学生をめぐる「読むこと」の実態と課題 第3週 学問的な書物との出会いと面白さ 第4週 著者(書き手)の視点・立場から「読むこと」 第5週 読者(読み手)の視点・立場から「読むこと」 第6週 批判的に「読むこと」の具体的な方法と実践 第7週 書評(ブックレビュー)を「読むこと」 第8週 まとめ			
<b>【授業及び学習の方法】</b> この授業は、講義をはじめ、受講生どうしのグループ・ディスカッションの活動で構成されます。特に、ディスカッションを通じて受講生どうしの議論や新たな気づきを積極的に促進します。また、授業内で様々な書物を紹介しますので、興味があれば是非主体的に「読む」ようにして下さい。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 自身が関心のあるテーマやトピックについて、①最近5年以内の学問的な書物を大学図書館などで入手し(5時間)、②それらの書物の内容を簡潔に要約し(20時間)、③著者の主張(結論)の面白い箇所や今後読んでみたい書物についての情報を文章で説明してください(5時間)。その際に、香川大学大学教育基盤センターの「リーディングリスト」なども活用してください。なお、この自学自習は、授業における最終レポートの作成準備にもなります。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書:特にありません。 参考文献: 荻谷剛彦『知的複眼思考法 ―誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社、2002年。 鈴木哲也『学術書を読む』京都大学学術出版会、2020年。 河野哲也『問う方法・考える方法 「探求型の学習」のために』筑摩書房(ちくまプリマー新書372)、2021年。 沼野元義「言葉の豊かさと複雑さに向き合う」東京大学文学部広報委員会編『ことばの危機 大学入試改革・教育政策を問う』集英社(集英社新書1024B)2020年、65-115頁。 香川大学大学教育基盤センター「リーディングリスト」。 世界思想社「学ぶ人のために シリーズ」「書籍検索」(ウェブリソース)。			

**オフィスアワー** 基本的には、火曜日2校時、研究室は、北キャンパス5号館4階です。詳細は、担当教員に相談して下さい。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

各週に出席確認を兼ねて「振り返りシート」を書いてもらいます。前提となる知識は特に不要です。高校までの「読むこと」と大学からの「読むこと」の相違点をあらためて一緒に考えてみましょう。

ナンバリングコード BIIAR-G-10-1 授業科目名 (時間割コード:001201) 学問への扉 Introduction to academic research やってみる科学 Hands-on science	科目区分 学問への扉 水準 学士:入門科目 分野 学問への扉 授業形態 講義	時間割 2022年度 2Q木5 提供部局:大教センター DPコード:bac 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 寺尾 徹, 野村 美加, 高橋 尚志, 鶴町 徳昭, 野々村 敦子, 山中 稔, 杉野本 勇氣	関連授業科目 自然科学基礎実験 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習(準備学習7.5時間+事後学習22.5時間)			
<b>授業の概要</b> わたしたちの回りには、光や空気、水、冷蔵庫や果物、野菜、塩や砂糖などの調味料、何気ない数字のあつまり、地域のまちかど、商店街の売り上げや水田の風景、空や海や山のかたち、島々などの身近なものにあふれています。これらはみんな大学での学問の対象です。そこからは、みずからの「科学ごころ」を働かせることによって、多様な気づきを得ることができます。大学での学びの源泉はそこにあるのです。いろいろな学部や分野の教員が、それぞれの専門研究に近いところから、「やってみる」ことによって得られる気づきの機会を提供します。授業を通じて教室や学内外、自宅等で、科学的実験や数理解析・調査等をやってみます。個人実験も行い結果をレポートにまとめてみましょう。			
<b>授業の目的</b> 巨大な実験装置はなくとも、周囲に身近にあるものや事柄を対象にした学問的アプローチや科学的実験ができるようになること、更にそこから思索を深めることによって、身近な対象から新しい気づきを得られるようになります。また、実践した学問的・科学的アプローチについて、その背景、結果得られた事実、その結果から考えられる結論を客観的に説明し表現し、交流する楽しさを味わいます。これらの活動を通じて興味関心を育て、文系・理系を問わず、大学における自らの学問の対象となる分野を更に広げます。			
<b>到達目標</b>			
1. 多様な対象への学問的・科学的アプローチから、新たな気づきや学問的問いにつなげていくことができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 学問的・科学的実践の結果からの気づきや問いを客観的に表現できるようになる(共通教育スタンダードの共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」及び、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 大学における自らの幅広い学びを計画することができるようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の質問タイムに口頭で、あるいはそのあとmoodle等に質問・コメントをすること。よい質問は加点する。教員から出されるワークシートに基づく採点(到達目標1に対応)。10点×6回。 期末レポートは以下の2題。 (1) 授業でヒントを得て、あるいは独自アイデアで「やってみた科学」についてレポートにまとめる。行ったことと結果からわかることを客観的に記述し、気づきを表現すること。(到達目標2に対応)(30点) (2) この授業を経て広がった大学での学びの抱負をまとめる(到達目標3に対応)。(10点)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画(予定)】</b> 授業の進行状況や進め方の工夫等により、授業計画を修正する場合があります。 第1週 イントロダクション、 「雲と氷で気候変動をやってみる科学」(担当:寺尾 徹) 第2週 「みんなの気づきを地図上で可視化する科学」(担当:野々村敦子) 第3週 「天然パン酵母を培養してみる科学」(担当:野村美加) 第4週 「光と色の科学」(担当:鶴町徳昭) 第5週 「公園の砂場でみる摩擦の科学」(担当:山中 稔) 第6週 「計算からパターンを抽象化する科学」(担当:杉野本勇氣) 第7週 「ストロートンボ・ペーパーシード」(担当:高橋尚志) 第8週 まとめとレポート課題の解説			
<b>【授業および学習の方法】</b> ・授業は講義形式(パワーポイント資料、冊子類を中心)を基本しますが、受講生の意見をまとめるためのワークシートを使う場合もあります。意見に基づいて意見発表ができる機会を適宜つくり、できる限り「双方向の授業」となるように務めます。なお、授業中に、授業を活性化させる等の発言・質問を行った場合、教員の判断で加点する場合があります。			
<b>【自習学習のためのアドバイス】</b> ・各回の授業の前に資料や動画等の参照を求める場合があります。			

- ・授業で紹介されたものごとを、実際に自分でやってみることを大切にしています。計画的に取り組もう。
- ・各回の授業における講師の問いにこたえて自分なりの発見にもとづくレポートを書くこと。
- ・授業期間のうちに自分なりの「科学的な実験」を実践して自分なりに楽しんでみよう。みんなにも紹介をする機会を設ける予定です。その結果を客観的なレポートにまとめてみよう。
- ・安全に関する注意事項については守るようにしてください。

#### 教科書・参考書等

- ・特にありません。
- ・適宜資料・プリントを配布します。

オフィスアワー 授業終了後、教室において

主担当教員：terao.toru@kagawa-u.ac.jp

#### 履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・毎回出席をとりますが、15分以上遅刻する場合は欠席扱いとします。ただし、遅刻理由を証明できる書類を次回講義時に提出した場合は、出席扱いとします。
- ・家で実験をするために必要な機材を貸与したり、配布したりする場合があります。大切に扱い、期限までに必ず所定の方法で返却をしてください。この点が守れない場合は成績に反映することもあります。
- ・教員からの安全上の注意はしっかり守ること。学外での行動の際には、安全上、法的、倫理的に問題がある行動等は厳に慎むこと。

#### 教員の実務経験との関連

特に該当しません。

ナンバリングコード BIIAR-bcaG-10-Eg1 授業科目名 (時間割コード:001304) 学問への扉 Introduction to academic research 教育の“これまで”と“これから”を 考える Past and future of education	科目区分 学問への扉 水準 学士:入門科目 分野 学問への扉 授業形態 演習 グループワーク	時間割 2022年度 1Q木5 提供部局:大教センター DPコード:bca 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 岡田 涼, 小方 朋子	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 演習90分×7.5回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> この授業は、自分のこれまでに受けてきた教育の経験をもとにしながら、教育に関連する研究の視点をもつことを目的としています。幼少期から現在までに受けてきたさまざまな経験をもとに、疑問を感じたこと、課題だと感じることを掘り下げて問いを立て、自ら解決策を考えます。グループで話し合いながら、問いを立て解決策を考え、人に伝えるという研究の一連の流れを経験します。授業のなかでは、グループでの議論や大学教員の研究室の訪問など、自ら他者とかがかわることが求められます。			
<b>授業の目的</b> 大学における研究の一連の過程を経験し、その初歩的な力を身に付けることを目指す。そのために、自身の経験をもとに教育に関する問題とその解決策を考え、プレゼンテーションを行う。			
<b>到達目標</b>			
1. 自身の教育経験から問いを立てることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 立てた問いについて、専門的な知識を有する他者からヒントを得て、解決策を考えることができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 考えた解決策について、うまく他者に伝えることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> グループ発表50%、最終レポート50%			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回:オリエンテーション(授業説明、グループ分け、テーマのアイデア出し) 第2回:テーマの設定(アイデア出し、グループでの決定) 第3回:テーマの決定(問いの設定、探求の計画) 第4回:教員訪問①(教員の専門を調べる、アポ取り) 第5回:教員訪問②+プレゼン準備①(訪問、解決策のまとめ) 第6回:プレゼン準備②(ポスター作成、発表準備) 第7回:学生プレゼン①(発表) 第8回:学生プレゼン②(発表、まとめ)			
<b>【授業及び学習の方法】</b> ・授業は基本的にグループでの演習形式です。 ・グループで1つのプレゼン完成を目指します。 ・活動の流れは、①問いを立てる、②教員を訪問してヒントをもらう、③解決策を考える、④プレゼンする、です。 ・教員訪問については、自分でアポイントメントを取り、第3回の授業終了時から第6回開始時までの間で行います(授業時間外も含みます)。 ・プレゼンはポスター発表形式で行います。 ・この授業は対面で行います。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> ・自分の経験から問いを立てるために、教育に関する書籍や新聞に触れておく。 ・問いについて解決策を得るために、教員のアドバイスに加えて、グループで手分けして、関連する書籍を調べる。 ・プレゼンの準備のために、パワーポイントの作成方法について、書籍やwebページで調べる。 ・その他、授業時間内外に担当教員に相談する。			
<b>教科書・参考書等</b> 特にありません。必要に応じて資料を配布します。			
<b>オフィスアワー</b> メールで事前に連絡してもらった方がスムーズです。 岡田:金曜日1限目、8号館6階 小方(朋):月曜日3限目、8号館2階			

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・グループでの演習のため、出席を重視します。
- ・この授業では、自分たちで動いて学ぶことを重視します。
- ・教育に関する内容ですが、教育学部以外の学生にも積極的に受講してもらいたいと思っています。



ナンバリングコード BIIAR-bcaG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:001301) 学問への扉 Introduction to academic research 越境する学問 イ Crossing disciplinary boundaries	科目区分 学問への扉 水準 学士:入門科目 分野 学問への扉 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 1Q月1 提供部局:大教センター DPコード:bca 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 蝶 慎一, 高橋 尚志, 寺尾 徹, 西本 佳代, 野村 美加, 石井 一也	関連授業科目 学問基礎科目・主題科目全般 履修推奨科目 この授業で新たに魅力を感じた分野の科目		
学習時間 講義90分×7+講義45分×1+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 大学の学びは高校までの学びとどう違うのだろうか?大学の学びは現代という時代、学生一人一人にとってどのような意味があるのだろうか?なぜ自分の専門分野以外の分野を学ぶ必要があるのか?——こういった問いを自分なりに立てて、自分の学びに関係づけることができれば、大学での学びはきっと意義深いものになります。この授業では、分野の違う複数の教員が、受講生が関心をもつテーマを軸に、それぞれの学問の魅力、大学での学びの意義について語り(あい)ます。それを聞き、時に参加しながら、大学での学びの構えを身につける入門科目です。			
<b>授業の目的</b> 人文・社会・自然科学における学問的な視点やアプローチの仕方を学び、現実社会や一人一人の人生の諸問題に対する各学問の意義を理解する。それとともに、教員の与える正解に到達することを目的とする「勉強」から、時代や人生の中で自ら目的を定め、探求する「研究」へと、学びの構えを転換するきっかけをつかむ。それらを通して、大学における学びを自分でプロデュースできるようになる。			
<b>到達目標</b>			
①各授業で示される学問的な視点やアプローチの仕方を理解し、それを自分の関心に結び付けて説明することができる。 ②各授業内容について積極的に考え、疑問点を見出し、それを表現することができる。 ③この授業を踏まえ、広い視野のもとで今後の学びのプランを立てることができる。  ①②③すべて、共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」および「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「課題解決のための汎用的スキル」に対応。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・各授業の内容についての振り返りレポート、授業中に行う活動 80% (①②に対応) ・今後の学びのプラン 20% (③に対応)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1週 インTRODクシヨン・教員自己紹介・共通テーマの提示 第2週 物理学の話(高橋尚志)+教員、学生からのコメント・質問 第3週 教育学の話(蝶慎一)+教員、学生からのコメント・質問 第4週 地球科学・気象学の話(寺尾徹)+教員、学生からのコメント・質問 第5週 社会学の話(西本佳代)+教員、学生からのコメント・質問 第6週 生物学の話(野村美加)+教員、学生からのコメント・質問 第7週 経済学・平和学の話(石井一也)+教員、学生からのコメント・質問 第8週 全体ディスカッション・まとめ			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 第1週にこの授業のテーマを設定します。その後、6名の教員がリレー形式で授業を担当します。毎回の授業では、メインの教員が自分の学問分野および授業のテーマについて話した後、他の教員、学生との対話が行われます。授業時間内に課題が設定されることもあるので、積極的に取り組んでください。また各回の終了後に、受講生には振り返りのレポート(評価対象)が課されますので、ノートを取りながら参加するとよいでしょう。第8週は担当教員があつまって振り返りのディスカッションを行います。学生も参加できるような仕組みにしますので、積極的に取り組んでください。  *この授業では、口頭あるいは文章等を用いて教員や受講者間の意見交換やグループワークを行う場合があります。なお、グループワークを苦手とする学生は、個人ワークも認めるので、初回の講義の際に申し出てください。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> ①授業での新しい発見をとりまとめ、ノートし、レポートとして提出する(事後学習) ②次回登壇する教員の専門領域について調べて、質問したいことを考えてくる(事前学習) ③今後の学びのプランを練る(授業開始から考え始め、授業終了時に完成させる) *詳細については第1週の授業で説明します。			

\*①②③をあわせて、授業期間中に30時間相当の作業。作業には個人差があるので、この時間数が必須というわけではありません。

**【授業形態】**

この科目は基本的に対面授業を行いますが、一部遠隔授業も行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

**教科書・参考書等**

購入してもらった教科書はありません。参考書については各授業で紹介します。

**オフィスアワー** 全般的な点については、コーディネーターの蝶まで（オフィスアワー：火曜日 2 講時、研究室は幸町北キャンパス 5 号館 4 階）。個々の講義内容に関しては、授業中に講義担当者に相談のこと。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・この授業は1回生をターゲットとした科目です。
- ・定員は100名です。
- ・この授業では、口頭あるいは文章等を用いて教員や受講者間の意見交換やグループワークを行う場合があります。なお、グループワークを苦手とする学生は、個人ワークも認めるので、初回の講義の際に申し出てください。
- ・いろいろな学問分野が取り扱われますが、前提となる知識は不要です。関心があることが受講資格です。「大学の学びは高校までの学びとどう違うのだろうか?」「大学の学びは自分にとってどのような意味があるか?」「なぜ自分の専門分野以外の分野を学ぶ必要があるのか?」そういった疑問をもったみなさん、ぜひ受講してください!

ナンバリングコード BIIAR-bcaG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:001302) 学問への扉 Introduction to academic research 越境する学問 ロ Crossing disciplinary boundaries	科目区分 学問への扉 水準 学士:入門科目 分野 学問への扉 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 1Q火2 提供部局:大教センター DPコード:bca 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 佐藤 慶太, 岡田 徹太郎, 三宅 岳史, 石井 知彦, 舟橋 正浩, 鶴町 徳昭, 横平 政直	関連授業科目 学問基礎科目・主題科目全般 履修推奨科目 この授業で新たに魅力を感じた分野の科目		
学習時間 講義90分×7+講義45分×1+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 大学の学びは高校までの学びとどう違うのだろうか?大学の学びは現代という時代、学生一人一人にとってどのような意味があるのだろうか?なぜ自分の専門分野以外の分野を学ぶ必要があるのか?——こういった問いを自分なりに立てて、自分の学びに関係づけることができれば、大学での学びはきっと意義深いものになります。この授業では、分野の違う複数の教員が、受講生が関心をもつテーマを軸に、それぞれの学問の魅力、大学での学びの意義について語り(あい)ます。それを聞き、時に参加しながら、大学での学びの構えを身につける入門科目です。			
<b>授業の目的</b> 人文・社会・自然科学における学問的な視点やアプローチの仕方を学び、現実社会や一人一人の人生の諸問題に対する各学問の意義を理解する。それとともに、教員の与える正解に到達することを目的とする「勉強」から、時代や人生の中で自ら目的を定め、探求する「研究」へと、学びの構えを転換するきっかけをつかむ。それらを通して、大学における学びを自分でプロデュースできるようになる。			
<b>到達目標</b>			
① 各授業で示される学問的な視点やアプローチの仕方を理解し、それを自分の関心に結び付けて説明することができる。 ② 各授業内容について積極的に考え、疑問点を見出し、それを言葉で表現することができる。 ③ この授業を踏まえ、広い視野のもとで今後の学びのプランを立てることができる。  ①②③すべて、共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「課題解決のための汎用的スキル」に対応。			
<b>成績評価の方法と基準</b> ・各授業の内容についての振り返りレポート、授業中に行う活動 80% (①②に対応) ・今後の学びのプラン 20% (③に対応)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 各講義の内容と担当者 第1週 インTRODクション・教員自己紹介・共通テーマの提示 第2週 化学の話(石井知彦+舟橋正浩)+教員、学生からのコメント・質問 第3週 経済学の話(岡田徹太郎)+教員、学生からのコメント・質問 第4週 物理学の話(鶴町徳昭)+教員、学生からのコメント・質問 第5週 哲学・倫理学の話(佐藤慶太)+教員、学生からのコメント・質問 第6週 医学の話(横平政直)+教員、学生からのコメント・質問 第7週 哲学・倫理学の話(三宅岳史)+教員、学生からのコメント・質問 第8週 全体ディスカッション・まとめ			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 第1週にこの授業のテーマを設定します。その後、6人の教員がリレー形式で授業を担当します。毎回の授業では、メインの教員が自分の学問分野および授業のテーマについて話した後、他の教員、学生との対話が行われます。授業時間内に課題が設定されることもあるので、積極的に取り組んでください。また各回の終了後に、受講生には振り返りのレポート(評価対象)が課されますので、ノートを取りながら参加するとよいでしょう。第8週は担当教員があつまって振り返りのディスカッションを行います。学生も参加できるような仕組みにしますので、積極的に取り組んでください。  この授業では、口頭あるいは文字を用いて教員や受講者間の意見交換やグループワークを行う場合があります。なお、グループワークを苦手とする学生は、個人ワークも認めるので、初回の講義の際に申し出てください。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> ① 授業での新しい発見をとりまとめ、ノートし、レポートとして提出する(事後学習) ② 次回登壇する教員の専門領域について調べて、質問したいことを考えてくる(事前学習)			

③ 今後の学びのプランを練る（授業開始から考え始め、授業終了時に完成させる）

- ・詳細については第一週の授業で説明します。
- ・①②③をあわせて、授業期間中に30時間相当の作業。作業には個人差があるので、この時間数が必須というわけではありません。

**【授業形態】**

この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

**教科書・参考書等**

購入してもらった教科書はありません。参考書については各授業で紹介します。

**オフィスアワー** 全般的な点については、コーディネーターの佐藤まで（オフィスアワー：木曜日13時～15時、研究室は幸町北キャンパス5号館5階）。個々の講義内容に関しては、授業中に講義担当者に相談のこと。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・この授業は1回生をターゲットとした科目です。
- ・定員は100名です。
- ・この授業では、口頭あるいは文章等を用いて教員や受講者間の意見交換やグループワークを行う場合があります。なお、グループワークを苦手とする学生は、個人ワークも認めるので、初回の講義の際に申し出てください。
- ・いろいろな学問分野が取り扱われますが、前提となる知識は不要です。関心があることが受講資格です。「大学の学びは高校までの学びとどう違うのだろうか?」「大学の学びは自分にとってどのような意味があるか?」「なぜ自分の専門分野以外の分野を学ぶ必要があるのか?」そういった疑問をもったみなさん、ぜひ受講してください!

ナンバリングコード BIIAR-G-10-1 授業科目名 (時間割コード:001311) 学問への扉 Introduction to academic research SDGs学入門 Introduction to the sustainable development goals (SDGs)	科目区分 学問への扉 水準 学士:入門科目 分野 学問への扉 授業形態 講義	時間割 2022年度 3Q木5 提供部局:大教センター DPコード:bce 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 寺尾 徹, 小方 直幸	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×6.5回+SDGs実践活動90分+自学自習(準備学習15時間・事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> SDGs (Sustainable Development Goals / 持続可能な開発目標)は、貧困に終止符を打ち、地球を保護し、すべての人が平和と豊かさを楽しむようにするために、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された、その成否が21世紀社会の未来を左右するかもしれない重要な国際目標です。当たり前の「良いこと」であるように見えるこの国際目標ですが、この授業では、あらためてSDGsが必要とされた理由を考えます。背景となっている21世紀社会の危機の特徴。危機を回避するための目標としてSDGsは充分なのか。SDGsを達成することは可能なのか。SDGsを達成するための実際の取り組み。香川大学で行われているSDGsを目指す持続可能性に係る研究や先端技術研究について講義します。			
<b>授業の目的</b> SDGsの達成が必要とされている理由をより深くつかみ、自分の頭で考えてどのような取り組みが求められているのかを理解して行動できるようになる。また、そのためには文系理系の枠を超えた幅広い分野の理解が必要なことを理解し、大学における学びを自らデザインできるようになる。			
<b>到達目標</b>			
1. SDGsの意義を自分なりに理解し、人にその考えを伝えることができるようになること(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. SDGsの達成に貢献するための大学における学びを自分でデザインできるようになること(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. SDGsの達成のために香川大学や地域で行われている取り組みに参加できるようになること(共通教育スタンダードの「地域理解/地域に関する関心と理解力」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の質問タイムに口頭で、あるいはそのあとmoodle等に質問・コメントをすること。よい質問は加点する。教員から出されるワークシートに基づく採点(到達目標1に対応)。5点×8回 SDGsに関する具体的取り組みへの参加機会をいくつか提起します。いずれかの活動に参加して小レポートを書いてください。(到達目標3に対応)(20点) 期末レポートは以下の通り。 (1) SDGsについてあえて否定的な見解を立ててみる。それに対して自分なりにSDGsの重要性を明らかにする反駁を試みてみる。(到達目標1に対応)(30点) (2) この授業を経て広がった大学での学びの抱負をまとめる(到達目標2に対応)。(10点)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
【授業計画(予定)】 授業の進行状況や進め方の工夫等により、授業計画を修正する場合があります。 第1週 イントロダクション、 第2週 「持続可能性と発展は本当に両立するのか?」 第3週 「地球と人の関係は本当に変えられるのか?」 第4週 「SDGsのための国際協力に基づく取り組み」 第5週 「持続可能な人と自然の関係をデザインする21世紀の取り組み」 第6週 大学または地域におけるSDGsの取り組みへの参加 ※期間中に複数の機会を紹介します。条件に合わせて参加してみよう。 第7週 「水素エネルギー・省エネ技術/21世紀の先端技術の可能性を探る」 第8週 まとめとレポート課題の解説			
【授業および学習の方法】 ・授業は講義形式(パワーポイント資料、冊子類を中心)を基本しますが、受講生の意見をまとめるためのワークシートを使う場合もあります。意見に基づいて意見発表ができる機会を適宜つくり、できる限り「双方向の授業」となるように務めます。なお、授業中に、授業を活性化させる発言や質問があった場合、教員の判断で加点する場合があります。			
【自習学習のためのアドバイス】 ・各回の授業の前に資料や動画等の参照を求める場合があります。 ・各回の授業における講師の問いにこたえて自分なりの発見にもとづくレポートを書くこと。 ・授業期間のうちに自分なりのSDGsへの批判と反駁を試み、レポートにまとめてみよう。			

**教科書・参考書等**

- ・特にありません。
- ・適宜資料・プリントを配布します。

**オフィスアワー** 授業終了後、教室において

主担当教員：terao.toru@kagawa-u.ac.jp

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・毎回出席をとりますが、15分以上遅刻する場合は欠席扱いとします。ただし、遅刻理由を証明できる書類を次回講義時に提出した場合は、出席扱いとします。
- ・地域のSDGsの取り組みへの参加をする場合もあります。社会人としての常識を守り、節度を持った真剣な態度で参加してください。この点が守れない場合は成績に反映することもあります。

**教員の実務経験との関連**

特に該当しません。

ナンバリングコード BIIAR-bcaG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:001303) 学問への扉 Introduction to academic research デザインのすすめ Introduction to Design	科目区分 学問への扉 水準 学士:入門科目 分野 学問への扉 授業形態 講義	時間割 2022年度 1Q火2 提供部局:大教センター DPコード:bca 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 井藤 隆志, 大場 晴夫, 石塚 昭彦, 釜床 美也子, 南 政宏	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習(30時間)			
<b>授業の概要</b> プロダクトデザイン、建築デザイン、ビジュアルデザイン、サービスデザインの各専門分野の教員が、その領域の事例から多様なデザインを例に、デザインの背景にある思考と表現を紹介していきます。			
<b>授業の目的</b> 近年のデザインは狭義な意味で造形や色彩を計画・表現するだけのものではなく、我々の暮らしや社会における様々な場面において、問題解決を行ったり、思考・概念を組み立てることとして捉え始めています。本講座では、多様なデザインを通してこれからの社会におけるモノやコトの見方を身につけます。			
<b>到達目標</b>			
①様々な分野におけるデザインを理解し、文化・社会・自然におけるデザインの関りを説明することができる「広範な人文・社会・自然に関する知識」 ②これからの暮らしや社会におけるデザインの意義が説明できる「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」 ③デザインにおける問題解決型思考を自分の学問領域に関係づけて解釈することができる「課題解決のための汎用的スキル」			
<b>成績評価の方法と基準</b> 各回課題レポート70%(全7回:各10%) 最終レポート30%			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
【授業計画】 第1回 ガイダンス デザインとは? (創造工学部 井藤隆志) 第2回 プロダクトデザイン1 概要 (創造工学部 大場晴夫) 第3回 プロダクトデザイン2 事例紹介 (創造工学部 大場晴夫) 第4回 建築デザイン 概要と事例紹介 (創造工学部 釜床美也子) 第5回 ビジュアルデザイン 概要と事例紹介 (創造工学部 南政宏) 第6回 サービスデザイン1 概要 (創造工学部 石塚昭彦) 第7回 サービスデザイン2 事例紹介 (創造工学部 石塚昭彦) 第8回 まとめ 最終レポート (創造工学部 井藤隆志)			
【授業および学習方法】 この科目は原則対面授業で行います。 各回に小課題を提示するのでレポートを提出してください。			
【自学自習のためのアドバイス】 授業外での学習が可能ないように各回で参考文献の提示や資料を配布しますので、各自個別の学習を推奨します。(各回4時間程度の内容)			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書は使用しません。			
<b>オフィスアワー</b> オムニバス形式のため、各回の教員にメールで確認をお願いします。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 講義には必ず出席し、不明なことは質問してください。			
<b>教員の実務経験との関連</b> メーカー、およびデザイン事務所での実務経験をもとにデザインについて講義を行います。			

ナンバリングコード BIIAR-bcdG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:001305) 学問への扉 Introduction to academic research 自然科学へのいざない An Invitation to the Natural Sciences	科目区分 学問への扉 水準 学士:入門科目 分野 学問への扉 授業形態 講義	時間割 2022年度 1Q月5 提供部局:大教センター DPコード: bcd 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 田中 直孝, 水田 圭祐, 林 敏浩, 和田 健司	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)			
<b>授業の概要</b> 本授業では、学部1年生を対象とし、幅広い自然科学の重要性、学ぶことの意義や楽しみを認識するだけでなく、あらゆる専門性や社会につながっていることを共に考えていきます。 学生からの質問（その場で促したり、Moodleを利用、ワークシート・質問カード利用など）に対して補足情報や新たな問題提起などに多くの時間を取る構成とし、自然科学から広がる様々な事象に対して、共に考え、1年生の今後の大学活動が豊かになることをねらいとします。			
<b>授業の目的</b> 授業のなかで取り扱う様々な自然科学の話題について、知り・疑問を持ち・共感することで、自然科学への興味や関心をもってもらうことが、本授業の目的です。自分や他の学生が抱いた疑問や気づきを共有することで、科学的な視点を養うことができるようになることも、もう一つの目的です。各自の専門を学ぶ過程や大学生として活動していく中で、自然科学との連関を意識できるようになることを期待しています。 以下に、主に取り上げる話題のキーワードを記します。  (前半) 食料生産、植物生理・生態学、スマート農業、農作物の流通経済 (中盤) インフォマティクス、情報理論、コンピュータ、認知科学 (後半) 医学にかかわる化学、環境と生活を支える化学、エネルギーを支える化学、自然科学の光と影、社会に繋がる自然科学			
<b>到達目標</b>			
1. 自然科学の話題について、知り・疑問を持ち・共感したことを記述（口頭質問）できる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 科学的な視点を養うことで「自分の専門性や大学での活動にどのように活かせるか」について、考える習慣が身につく。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b>			
各回で提示される課題の提出と内容によって評価する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回: ガイダンス 水田教員 (農学部) 林教員 (創造工学部) 和田教員 (医学部) 田中教員 (農学部) 第2回: 作物生産科学へのいざない 水田教員 (農学部) 食料生産、植物生理・生態学、スマート農業、農作物の流通経済 第3回: 質疑応答重視の時間 水田教員 第4回: 情報科学へのいざない 林教員 (創造工学部) 情報とは何か、情報をなぜ探究するのか、情報の何を学ぶべきなのか、 インフォマティクス、情報理論、コンピュータ、認知科学、 数理・データサイエンス、情報と社会 第5回: 質疑応答重視の時間 林教員 第6回: 化学研究へのいざない～触媒学を中心として～ 和田教員 (医学部) 医学にかかわる化学、環境と生活を支える化学、エネルギーを支える化学、 自然科学の光と影、社会に繋がる自然科学 第7回: 質疑応答重視の時間 和田教員 第8回: 総合の質疑応答とまとめ 水田教員 (農学部) 林教員 (創造工学部) 和田教員 (医学部) 田中教員 (農学部)			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 授業の各偶数回 (2, 4, 6回) では、各自然科学のテーマに関して学習します。 授業中は、何か疑問点やさらに詳しく聞いてみたいことを挙げられるように意識してください。 学生からの質問 (Moodleを利用、ワークシート・質問カード利用など適宜指示します。) には、次の各奇数回 (3, 5, 7回) で、教員から補足説明があります。質問内容によっては、さらなる情報提供や問題提起、派生した質疑応答なども想定しています。 最後の第8回は、全教員が集まり、様々な視点からの総合的な質疑応答をおこないます。			



**【自学自習のためのアドバイス】**

特に、奇数回と最終回は、積極的な質疑応答への参加を期待しています。そのため、偶数回で学んだことを復習したり、興味が湧いたことを調べたりし、質問ができるように準備する。(各3時間)

各偶数回後に提示される課題について、調べて作成する。(各3時間)

各奇数回のテーマについて、各自で調べて予習する。(各3時間)

最終回で質疑応答に参加できるように、これまでのテーマについて復習する。(3時間)

**教科書・参考書等**

特になし

**オフィスアワー** 田中直孝：水曜日15時から16時：農学部 BW棟5階 505-4

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。

ナンバリングコード BIIAR-baeG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:001306)	科目区分 学問への扉	時間割 2022年度 3Q火2	対象年次 1～
学問への扉 Introduction to academic research	水準 学士:入門科目 分野 学問への扉	提供部局:大教センター DPコード:bae	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
国境を超える看護学～ユニバーサルヘルスカバレッジ Borderless Nursing - Universal Health Coverage	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 清水 裕子, 芳我 ちより, 西村 亜希子	関連授業科目 看護学 心と体の健康		
	履修推奨科目 看護学 心と体の健康		
学習時間 授業90分×7.5回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標; 以下SDGs) の目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」に焦点をあて、世界のすべての人々が差別されることなく「健康」な生活を確保するという、ユニバーサルヘルスカバレッジの意義と方法を理解する。この授業がSDGs との出会いとなり、グローバルな視点を持つ経験となるよう、主体的に臨むことを期待する。			
<b>授業の目的</b> SDGsの目標3.8を達成するために「すべての人々に対する財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) を達成する」にはどうすればよいのか、それぞれの置かれた状況や立場からできる創造的な提案を作成することを目的とする。			
<b>到達目標</b>			
1. SDGs の社会的背景や達成度と関連する背景を説明できる (共通教育スタンダードbの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 授業であつかう社会活動事例をもとに、開発途上国を含めたすべての国々の人の「健康な生活」とは何かを説明できる (共通教育スタンダードaの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 長寿社会を享受している日本人や開発途上国を含めた世界の人々の健康格差やそれに伴う生活への影響を理解し、共助のために何か必要かを検討することができる (共通教育スタンダードeの「地域に関する関心と理解力」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b>			
Q末テスト50% (特に到達目標1, 2に対応)、グループ発表30% (特に到達目標3に対応)、小レポート20% (特に到達目標1, 2に対応)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
第1回 オリエンテーション: 現在の社会動向とSDGsの社会的背景 (清水・芳我・西村) 第2回 「京都町屋の健康対話事業」から人々の伝統的な健康生活を考察する (西村) 第3回 それぞれの地域における健康生活の工夫について理解する (西村) 第4回 「ミャンマーへの学生とのスタディーツアー」から人々の健康を考察する (芳我) 第5回 公衆衛生から人々の健康をまもる; プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション (芳我) 第6回 「池袋路上生活支援」から就労にまつわる日本社会の課題を考察する (清水) 第7回 「カンボジアへの日本型学校保健室体制のエクスポート活動」から健康格差を考察する (清水) 第8回 これまでの調査からグループごとに発表し、UHSについて深める/試験 (清水・芳我・西村)			
<b>【授業及び学習の方法】</b> 授業は講義を中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜グループワークを取り入れます。また、各セクションで小レポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理を促します。第8回では、それまでのグループで取り上げた課題と解決・解消策について報告を求めます。			
この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第2回 MDGs (Millennium Development Goals) からSDGsへの変遷と課題をまとめる。(5時間) 第3回 インタビュー調査 (5名程度) を実施し「人々の健康生活の工夫」を考察する。(5時間) 第4-5回 ミャンマーの社会事情を調査し、政治や自然環境が人々の健康に与える影響を調査する (5時間) 第6回 「自立支援法」の社会背景と路上生活者の就労背景を調査する (5時間) 第7回 カンボジアでのジェノサイドの歴史を調査し、人々の健康生活に与える影響をまとめる (5時間) 第8回 調査した課題を整理し、レポートとしてまとめ、グループでの発表資料を作成する (5時間)			
<b>教科書・参考書等</b>			
教科書は特に必要ありません。授業でのハンドアウトを活用します。 参考図書: ミルトン・メイヤロフ著/田村真・向野宜之訳 (2002) 『ケアの本質-生きることの意味』ゆみる			

出版。

国際看護研究会編（1999）『国際看護学入門』医学書院。

マーティン・セリグマン著／小林裕子訳（2004）『世界でひとつだけの幸せ』アスペクト。

清水裕子著（2013）『ヒューマンケアと看護学』ナカニシヤ出版。

他、参考書等は授業中に適宜紹介します。

**オフィスアワー** 火曜日第2時限（10:30～12:00）終了後

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。

**教員の実務経験との関連**

担当教員らは看護師、保健師としての国内外での看護保健分野の実務経験を有し、人々のユニバーサル・ヘルス・カバレッジに対応してきました。その経験を分かち合っ国際社会における日本人の役割や行動について考えを深めたい。

ナンバリングコード BIIAR-bcdG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:001307) 学問への扉 Introduction to academic research 近代と科学 Modernity and Sciences	科目区分 学問への扉 水準 学士:入門科目 分野 学問への扉 授業形態 講義	時間割 2022年度 1Q月5 提供部局:大教センター DPコード:bcd 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 石井 一也	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 8回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 教員は、近代の諸科学が、これまでどのような役割を果たしてきたのか、また「ポスト」近代(近代の次の時代)にどのような役割を果たしうるのかを考える材料を提供します。より具体的には、まず第一に、神の摂理が支配的だった中世との対比において、人間の理性や自由が尊重されるようになった近代を振り返ります。この時代に人類は、産業革命を経て未曾有の生産力を手に入れますが、同時に資源や市場をめぐって植民地支配を進め、環境を破壊し「人新生」を引き起こしてきました。第二に、近代の社会科学として経済学とマルクス主義に焦点を当て、近代を批判的にみていたマハートマ・ガンディーの思想を紹介します。第三に、ポスト近代の科学とは、いかなるものになりうるかを考えます。これらの議論を踏まえて、最後に、大学での学問において、それぞれの専門性と同時に学際性の大切さを確認して結びとします。			
<b>授業の目的</b> 近代の学問は、社会科学、自然科学を問わず、一般に、専門性を追求するあまり分析の視野が狭くなってゆく傾向にあったように思われます。学生は、それぞれの学問分野における専門性を高めると同時に、その学問分野の垣根を越えて幅広い視野を身につけることが求められます。こうした学際的アプローチの重要性を学生が認識できるようにすることにあります。			
<b>到達目標</b>			
1. 近代の諸科学のもつ可能性と限界について考えることができる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. それぞれの学問分野における専門性と同時に、学際的アプローチの重要性を認識できる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 近代以降の科学のあり方について想像することができる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 小レポート1回目(10点)、小レポート2回(20点)、最終レポート(70点)。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>授業計画</b> 第1回 はじめに:自己紹介と講義の概要 第2回 大学での学び:何を学ぶのか、なぜ学ぶのか 第3回 近代とは:理性と自由の獲得、産業革命、植民地支配、環境破壊、人新生 第4回 近代の社会科学:経済学とマルクス主義を中心に 第5回 ガンディーによる経済学・マルクス主義批判 第6回 ガンディーによる「ポスト」近代の社会経済構想 第7回 近代と「ポスト」近代:社会科学、自然科学をめぐって 第8回 おわりに:学問の専門性と学際性  <b>学習の方法</b> 授業は、対面で行ないます。講義を中心としつつも、受講者間のディスカッションなどもできるかぎり取り入れたいと考えています。  <b>自学自習に関するアドバイス</b> 授業中に取り上げられた事柄を敷衍して、自主的に文献検索を行い、研究を深めてゆくことが求められます。			
<b>教科書・参考書等</b> 特に指定しません。			
<b>オフィスアワー</b> 水曜日10:30~11:30			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 小レポートについては、授業中に課題を提示し、期限が短い場合があります(特に初回)。課題の内容と期限について、つねに注意を払ってください。なお、提出期限を超えたレポートは、一切受け付けませんので、ご注意ください。			

ナンバリングコード BIIAR-bacG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:001308) 学問への扉 Introduction to academic research 世界の言語と文化 Languages and cultures of the World	科目区分 学問への扉 水準 学士:入門科目 分野 学問への扉 授業形態 講義	時間割 2022年度 2Q月5 提供部局:大教センター DPコード:bac 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 寺尾 徹	関連授業科目 外国語科目、西洋古典語、言語学 履修推奨科目 英語および選択した初修外国語、古典語、言語学		
学習時間 講義90分×8回+自学自習 (準備学習7.5時間+事後学習22.5時間)			
<b>授業の概要</b> 【キーワード】世界の多様な言語・文化との出会い 世界のさまざまな地域について、その地域で用いられている多様な言語の構造や特徴にくわえ、背景となっている社会や文化について学び、異文化や未知の言語との出会いへの関心を入りに、諸言語への関心を高めるとともに、文系理系の枠も超えた多様な学問世界とつないでいく。			
<b>授業の目的</b> 異文化や未知の言語との豊かな出会いとはなにかを考察する。香川大学の全学共通教育で現在開講されている言語(英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・日本語)をはじめとする世界の諸言語について、自分が学習している言語を含めて、その特徴、歴史、文化的背景などを学ぶ。その中で、文系理系の枠も超えた、自然や社会、文化への関心が広がる。			
<b>到達目標</b>			
1. 自分が学習している言語や自言語について理解できる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 異文化や未知の言語を入りに、関連する自然、社会、文化に関する分野への理解を広げる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 3. 異文化や未知の言語との出会いから、文化の背景にある言語とは何か、さらにその背景にある自然、社会、文化について深く考え、豊かな気づきを得ることができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回レポート課題を設定する。それらの点数を単純合計し、成績を評価する。出席がない場合は原則としてレポート提出の権利を有しないものとする。レポートの未提出や提出遅れが3回以上ある場合は原則として0点とする。締め切りは授業の翌週の月曜日午後5時(月曜日が休日の場合は翌火曜日、提出先は修学支援グループの専用レポートボックス)。ただし、教員が個別に締め切り、提出先を設定する場合はそちらが優先される。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
【授業計画】 各講義の担当者とテーマは、以下の通り。予定(順序、担当者、タイトル)は変更となる場合があります。 1) 寺尾 徹 ガイダンス・大学での学びとあなたの世界 2) 植村友香子 フィンランド語は猫のことは? 3) イアン・ウイリー World Englishes 4) 佐藤慶太 ヨーロッパ文化の源流—ラテン語の世界 5) 三宅岳史 フランス文化を歩く:革命からアートまで 6) ポール・バテン ニュージーランドの自然環境保護の現状と課題:文化的な観点から 7) 高橋尚志 ヨークシャーの暮らし方 8) 寺尾 徹 インド亜大陸北東部の諸民族の言語と文化・まとめ  一部の授業回において、口頭あるいは文章等を用いて教員や受講者間の意見交換やグループワークを行う場合もある。授業時間中の発言や、ワークシート、moodleなどを利用した意見表明の機会を積極的に作り、教員からのフィードバックも行うことにより、大学での学びへの問題意識を広げる。  関心を幅広く持ち、講義で得た知識や発想をさらに広い範囲で自学し、週末にレポート作成をすること。授業で示される資料や参考書等をよく読み、自らの多様な関心や異文化、未知の言語と接した経験にも照らし合わせ、より広い事柄に触れる自学自習をすすめること。一部の授業回において、口頭あるいは文章等を用いて教員や受講者間の意見交換やグループワークを行う場合もある			
【自学自習のためのアドバイス】 授業の前に、次回のテーマを念頭に、自分の関心に引き付けてみよう(準備学習1時間)。 授業ではレポート出題があるので、自分の関心がどう広がったか確認しながら課題を完成させよう(事後学習3時間)。			
【授業形態】 この科目は基本的に対面授業を行います。			

**教科書・参考書等**

教科書は使用しない。各回のテーマごとに参考書を紹介する。

**オフィスアワー** 質問等がある場合は、授業直後ないし世話役教員（寺尾）または個別教員それぞれのオフィスアワーを利用すること。寺尾のオフィスアワー：金曜日10:30-11:30

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

毎回出席を取るので欠席しないこと。積極的な学習を期待する。

【備考】複数教員によるオムニバス形式。受講者数は120名を限度とする。

ナンバリングコード BIIAR-G-10-1 授業科目名 (時間割コード:001309) 学問への扉 Introduction to academic research 大学的香川ガイド イ An academic guide to Kagawa	科目区分 学問への扉 水準 学士:入門科目 分野 学問への扉 授業形態 講義	時間割 2022年度 1Q木1 提供部局:大教センター DPコード:bec 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 守田 逸人, 寺尾 徹, 平 篤志	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 香川県は日本で一番小さな県であるが、人とのかかわりの深い里海である瀬戸内海に面しており、単位面積当たりの海岸線の長さでは日本の都道府県で第3位である。多くの島嶼を抱え、海と人のかかわりを語るうえで重要な県である。讃岐山脈をひかえ、ため池の広がる平野と自然も多彩であり、水をめぐる人々の生きる闘いを刻んでいる。讃岐富士や屋島の地形は1400万年前の火山活動と地殻変動を物語る。弘法大師や屋島の合戦(源平合戦)、金刀比羅宮など日本の歴史に大きな意味を持つ象徴的な人や建造物、古跡も豊富で歴史・文化も豊かである。和三盆や塩田など、讃岐三白(砂糖・綿・塩)から讃岐うどん、希少糖まで、自然と社会の特徴を生かした生産の伝統と近代的な発展も興味深い。日本初の国立公園の一つとして指定された瀬戸内海の魅力に加え、近年は瀬戸内国際芸術祭で注目されて急速に海外からの観光客も惹きつけている香川県を、人文学・社会科学・自然科学の複眼的視点からアカデミックに紹介する。			
<b>授業の目的</b> 香川県のもつ特質を深掘りし、学生とともに再発見していく中で、地域に対する人文学・社会科学・自然科学のそれぞれのアプローチの持つ魅力や面白さに気づく。里海・島嶼・ため池に代表される水文化・弘法大師や屋島の合戦(源平合戦)、金刀比羅宮・和三盆糖と希少糖・讃岐うどん・美しい讃岐富士・香川用水と水不足・何気ない街角の神社仏閣・芸術祭・レンタサイクルなど、香川県の地域の特質に対する多様な興味関心をとらえて深めるとともに、これまで出会うことのなかった視点からの香川の地域論の可能性に気づくことにより、新たな学問的アプローチの楽しさを発見する。			
<b>到達目標</b>			
1. 香川県に関わる文化、社会、自然の魅力に気づくことができるようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」及び「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 香川県に関わる文化、社会、自然の魅力への興味関心にもとづき、自分で学問的に表現しガイドできるようになる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「地域に関する関心と理解力」及び「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 大学における文化、社会、自然への幅広い学びを計画することができるようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の授業に積極的に参加してミニレポートに回答すること(到達目標1・3に対応)。5点×8回。 期末レポートは以下を課題とする。 ○第2回~第7回の講師からそれぞれレポート課題が提示されます。そこから1つ課題を選んで自分なりのレポートにまとめる(到達目標2に対応)。(60点)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
【授業計画(予定)】 授業の検討状況により、授業計画を修正する場合があります。第1回の授業で授業計画は説明します。 第1回 大学での学びへのイントロダクションとレポート課題の解説 第2回 「海の民、山の民、そして里・町の民」 第3回 「気候から見た香川県ガイド」 第4回 「香川県の島嶼と若者」 第5回 「遍路の社会史」 第6回 「うどん県の歩き方・めぐり方」 第7回 「香川の海岸線と干潟」 第8回 まとめとレポート課題の解説・大学の学びのひろがりについて			
【授業および学習の方法】 ・授業は講義形式(教科書とパワーポイント資料中心)を基本とします。 ・毎回ミニレポートを課します(moodleの場合も紙の場合もあります)。 ・毎回期末レポートの課題を1つ提示します。そこから1つ課題を選んで、授業と並行して自分なりのレポートにまとめてください(レポートは、moodleへの提出とします)。 ・第1週と第8週は、大学における学びの広がりを考えます。自分の専門や将来の希望、興味関心をもとに、自分なりの学びのプランを考えてみましょう。 ・レポート等の締め切りは守ってください。			

**【自習学習のためのアドバイス】**

- ・毎回の授業の前に、教科書の関連する章の内容を読んで自分なりに理解してくること。
- ・毎回の授業のあとに、再度教科書の関連する章などを見直して理解を確認すること。
- ・各回の授業における教員の問いにこたえて、教科書の枠を超えて自分なりの調査や考察に基づき発見をまじえて表現し、オリジナルな期末レポートを書くこと。

**教科書・参考書等**

「大学的香川県ガイド」昭和堂、2,750円（定価・税込）

香川県のどこに行くにも最高のガイドになると思います。大学時代、その後もぜひ活用してください。

第1回目は教科書がなくでも大丈夫です。教科書は生協にて販売していただきます。

**オフィスアワー** 授業終了後、教室において。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・毎回出席をとりますが、15分以上遅刻する場合は欠席扱いとします。ただし、遅刻理由を証明できる書類を次回講義時に提出した場合は、出席扱いとします。
- ・地理・歴史好きの学生にとっては、これまでの関心がぐっと広がります。社会科は苦手だった学生にとってもおもしろい授業となります。積極的に受講してください

**教員の実務経験との関連**

- ・特になし



ナンバリングコード BIIAR-G-10-1 授業科目名 (時間割コード:001310) 学問への扉 Introduction to academic research 大学的香川ガイド ロ An academic guide to Kagawa	科目区分 学問への扉 水準 学士:入門科目 分野 学問への扉 授業形態 講義	時間割 2022年度 2Q火2 提供部局:大教センター DPコード:bec 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 守田 逸人, 寺尾 徹, 平 篤志	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7.5回+自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 香川県は日本で一番小さな県であるが、人とのかかわりの深い里海である瀬戸内海に面しており、単位面積当たりの海岸線の長さでは日本の都道府県で第3位である。多くの島嶼を抱え、海と人のかかわりを語るうえで重要な県である。讃岐山脈をひかえ、ため池の広がる平野と自然も多彩であり、水をめぐる人々の生きる闘いを刻んでいる。讃岐富士や屋島の地形は1400万年前の火山活動と地殻変動を物語る。弘法大師や屋島の合戦(源平合戦)、金刀比羅宮など日本の歴史に大きな意味を持つ象徴的な人や建造物、古跡も豊富で歴史・文化も豊かである。和三盆や塩田など、讃岐三白(砂糖・綿・塩)から讃岐うどん、希少糖まで、自然と社会の特徴を生かした生産の伝統と近代的な発展も興味深い。日本初の国立公園の一つとして指定された瀬戸内海の魅力に加え、近年は瀬戸内国際芸術祭で注目されて急速に海外からの観光客も惹きつけている香川県を、人文学・社会科学・自然科学の複眼的視点からアカデミックに紹介する。			
<b>授業の目的</b> 香川県のもつ特質を深掘りし、学生とともに再発見していく中で、地域に対する人文学・社会科学・自然科学のそれぞれのアプローチの持つ魅力や面白さに気づく。里海・島嶼・ため池に代表される水文化・弘法大師や屋島の合戦(源平合戦)、金刀比羅宮・和三盆糖と希少糖・讃岐うどん・美しい讃岐富士・香川用水と水不足・何気ない街角の神社仏閣・芸術祭・レンタサイクルなど、香川県の地域の特質に対する多様な興味関心をとらえて深めるとともに、これまで出会うことのなかった視点からの香川の地域論の可能性に気づくことにより、新たな学問的アプローチの楽しさを発見する。			
<b>到達目標</b>			
1. 香川県に関わる文化、社会、自然の魅力に気づくことができるようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」及び「地域に関する関心と理解力」に対応)。 2. 香川県に関わる文化、社会、自然の魅力への興味関心にもとづき、自分で学問的に表現しガイドできるようになる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」、「地域に関する関心と理解力」及び「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 大学における文化、社会、自然への幅広い学びを計画することができるようになる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の授業に積極的に参加してミニレポートに回答すること(到達目標1・3に対応)。5点×8回。 期末レポートは以下を課題とする。 ○第2回~第7回の講師からそれぞれレポート課題が提示されます。そこから1つ課題を選んで自分なりのレポートにまとめる(到達目標2に対応)。(60点)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
【授業計画(予定)】 授業の検討状況により、授業計画を修正する場合があります。第1回の授業で授業計画は説明します。 第1回 大学での学びへのイントロダクションとレポート課題の解説 第2回 「香川県の自然環境ガイド」 第4回 「香川県の歴史ガイド」 第6回 「香川県の産業や経済ガイド」 第3回 「香川県の海洋環境ガイド」 第5回 「香川県の文化ガイド」 第7回 「香川県の現代的課題ガイド」 第8回 まとめとレポート課題の解説・大学の学びのひろがりについて			
【授業および学習の方法】 ・授業は講義形式(教科書とパワーポイント資料中心)を基本とします。 ・毎回ミニレポートを課します(moodleの場合も紙の場合もあります)。 ・毎回期末レポートの課題を1つ提示します。そこから1つ課題を選んで、授業と並行して自分なりのレポートにまとめてください(レポートは、moodleへの提出とします)。 ・第1週と第8週は、大学における学びの広がりを考えます。自分の専門や将来の希望、興味関心をもとに、自分なりの学びのプランを考えてみましょう。 ・レポート等の締め切りは守ってください。			

**【自習学習のためのアドバイス】**

- ・毎回の授業の前に、教科書の関連する章の内容を読んで自分なりに理解してくること。
- ・毎回の授業のあとに、再度教科書の関連する章などを見直して理解を確認すること。
- ・各回の授業における教員の問いにこたえて、教科書の枠を超えて自分なりの調査や考察に基づき発見をまじえて表現し、オリジナルな期末レポートを書くこと。

**教科書・参考書等**

「大学的香川県ガイド」昭和堂、2,750円（定価・税込）

香川県のどこに行くにも最高のガイドになると思います。大学時代、その後もぜひ活用してください。

第1回目は教科書がなくでも大丈夫です。教科書は生協にて販売していただきます。

**オフィスアワー** 授業終了後、教室において。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・毎回出席をとりますが、15分以上遅刻する場合は欠席扱いとします。ただし、遅刻理由を証明できる書類を次回講義時に提出した場合は、出席扱いとします。
- ・地理・歴史好きの学生にとっては、これまでの関心がぐっと広がります。社会科は苦手だった学生にとってもおもしろい授業となります。積極的に受講してください

**教員の実務経験との関連**

- ・特になし